

「スゴいエンジン」を味方に
吉田拓郎が特別戦連続V!



多摩川

10/31~11/5

G I

ウェイキーカップ



ファン投票で選ばれたドリリーム戦は初日を地元の濱野谷憲吾が全速逃げて快勝、2日目は毒島誠が2コースから峰竜太の懐を鋭く差して突き抜けた。シリーズはドリリーム組がやや取りこぼす中、予選5戦3勝の吉田拓郎が首位で通過。また関浩哉と池田浩二も準優勝を手に入れた。

準優勝は3カード全てがイン逃げ決着となり、優勝戦1枠は吉田がつかみ取った。「勝てそうな気がする。エンジンがすごすぎて。気合を入れて固くならないように。柔らかく乗れば優勝はできる。自信はあります」とレース後、吉田は強気のコメントを発した。優勝戦はコンマ13のスタートで関にのぞかれはしたが、1Mを先取るとバックでは独走に持ち込み、直前のびわこGIIに続く特別戦連続優勝を達成した。

シリーズ展開

多摩川ではそれまで実績のなかったエンジンは夏以降、積極的に整備が行われてきた。今回、吉田が優勝した52号機も7月下旬から一気に花開いた上昇機の一つ。「今節は52号機のおかげ。多摩川つて言うより52号機を好きになりました」と、当地初優勝に導いてくれた相棒には感謝しきりだった。

今年上半期はなかなか優出がでさず、記念レースでも結果を残せていなかったが、びわこGII、そしてウェイキーカップと秋を迎えて本来の姿が戻ってきた。「40歳を過ぎて落ち込んだりもするけど、まだまだ頑張れると自分に言い聞かせていきたい」と気を引き締め直した吉田。グランプリに出場はできなかったが、年末、そして来年へと今年の苦しみを力に変えてくれるだろう。

(トーチユウ・白川)

現場記者の目

着	人気	艇番	選手名	年齢	支部	今回成績	進入	ST
1	◎	①	吉田 拓郎	42	岡山	131121	1	13
2	△	②	関 浩哉	29	群馬	2143211	2	11
3	○	③	池田 浩二	46	愛知	3332211	3	15
4		⑤	平本 真之	40	愛知	4641122	5	19
5		⑥	峰 竜太	39	佐賀	5222432	6	.2
6	×	④	宮之原輝紀	26	東京	1522342	4	19
2連単	①-②		370円	2番人気	逃げ			
3連単	①-②-③		750円	1番人気				

F 2の足かせも何のその!
茅原悠紀が準パーフェクトV!



住之江

11/1~6

G I

高松宮記念



初日ドリリームは白井英治が逃げ、2日目ドリリームは馬場貴也が抜きで人気に応えた。しかし、その後は両者ともに大きく得点を伸ばすことができず、馬場は12位タイ、白井は15位タイで予選を通過。その中で快進撃を見せたのが茅原悠紀だ。初日ドリリーム戦は2着に敗れたが、2走目となった6枠戦で初白星を挙げて勢いに乗るとそのまま4連勝で予選トップ通過を決める。準優勝にも白星を重ねて、迎えた準優では少しスタートで後手を踏む形となったがそこから伸び返して先マイすると圧倒。

優勝戦では準優の反省を生かすように唯一の0台スタートを決める。こうなれば他の選手に逆転のチャンスはなく、見事なイン速攻で高松宮記念初Vを達成して、今年の獲得賞金も1億円を突破した。

シリーズ展開

優勝候補である石野貴之の欠場で大混戦が予想されたが、終わってみれば茅原が8戦7勝のオール2連対と圧巻の内容での優勝となった。今年は7月のオーシャンカップで2回目となるSG制覇を達成して好調モードだったが、8月には2本目のフライングを切ってしまう。今回は60日のフライング休みを残す中での戦いだだったが、そのハンデを感じさせずまさに茅原の独壇場だった。このVで大きく賞金も加算することができ、グランプリ2nd発進にも近づいた。表彰式では「グランプリもこれ(32号機)を引きます」と相棒をべた褒めしてグランプリでの活躍を誓った。年末の大舞台では相思相愛のエンジンを引き当て自身2回目となるGP制覇なるか、エンジン抽選の段階から注目を集めることになるそうだ。

(安達弘持)

現場記者の目

着	人気	艇番	選手名	年齢	支部	今回成績	進入	ST
1	◎	①	茅原 悠紀	37	岡山	2111111	1	09
2	×	④	定松 勇樹	23	佐賀	5324132	4	12
3		⑤	仲谷 颯仁	30	福岡	521152	5	15
4		⑥	西村 拓也	37	大阪	531412	6	14
5	○	②	上野真之介	36	佐賀	3222111	2	10
6	△	③	佐藤 翼	36	埼玉	2132421	3	17
2連単	①-④		620円	3番人気	逃げ			
3連単	①-④-⑤		3330円	13番人気				

最後の最後まで「宮地劇場」
GI 2勝目は通算1000勝星！



尼崎

11/10~15

GI

ダイヤモンドカップ



シリーズ展開

Wドリームは初日が吉川元浩2日目は土屋智則が制した。その後はともに機力不足に泣いて、まさかの両者予選落ちに終わった。宮地元輝が序盤からハイパワー。シリーズをけん引したが、予選ラストで大敗。同じレースを走った黒井達矢が2着2本にまとめて予選トップ通過となる。宮地は2位に甘んじて、定松勇樹が3位に浮上した。8人で挑んだ地元勢はダブルエース機の44号機を駆った魚谷智之と高野哲史の2人だけが予選突破を果たしたものの、他は準優勝に終わった。その準優勝は1枠3人が1着。ただ、準優12Rでは、もうひとつのエース4号機を駆った前田将太と白井英治が痛恨の勇み足となった。他に井口佳典、徳増秀樹、松田祐季といった尼崎で特別タイトルを制している3人が優出を果たした。

現場記者の目

まさに「宮地劇場」といえる1節だった。相棒の10号機は整備士さんも目を付けていたひとつ。レース足の良さが武器だった。2日目DRの2着争いで猛烈な動きを見せた。先行していた深谷知博をあっさりつかまえた。さらに、3日目にはイン先マイを果たした松井繁まで道中で逆転して1着を奪った。まさかの予選2位に「危ない走りをしたかった。やっぱりね、こういう奴なんです。でも、限界まで勝負しました」。気持ちを入れ替え、節一に仕上げたエンジンでデビュー通算1000勝がGI 2度目の優勝。激アツの逆転劇は尼崎に感動の渦を巻き起こした。今後も闘魂を胸に、熱さを前面に出した走りファンを魅了してくれそうだ。(日刊・北條)

着	人気	艇番	選手名	年齢	支部	今回成績	進入	ST
1	○	②	宮地 元輝	38	佐賀	2121261	2	08
2	◎	①	黒井 達矢	36	埼玉	3113221	1	11
3	△	③	定松 勇樹	23	佐賀	3142311	3	13
4		⑥	松田 祐季	38	福井	334142	6	19
5	×	④	井口 佳典	47	三重	5112532	4	19
6		⑤	徳増 秀樹	49	静岡	125322	5	17
2連単			②-①	740円	4番人気	抜き		
3連単			②-①-③	1920円	6番人気			

運と流れも引き寄せた！
吉田裕平がGI初優勝！



丸亀

11/9~14

GI

京極賞



シリーズ展開

現行エンジンは9月26日から使用開始。まだ使って間もないが、エース機候補と評判の45号機は8月のSGボートレースメモリアルでも1枠で優出した平本真之が獲得した。Wドリーム第1弾の初日12R「京極ドリーム」は峰竜太がインからぎゅちりと押し切った。第2弾の2日目12R「ブルーナイトドリーム」も毒島誠がインからゼロ台のトップスタートを決めて完勝。当地巧者ぶりを見せつけた。予選トップ通過を決めたのは「起こしてから加速感が抜群で出口もいい」と節イチムードを漂わせていた吉田裕平。2位に末永和也が続ぎ、3位の毒島とともに準優1枠を勝ち取った。その準優は1枠トリオが勝ち上がり、2連単もすべて1番人気での決着。大本命で収まった。

現場記者の目

グランプリ出場を狙う賞金ランク上位の実績組よりも、若い力が勝ったシリーズだったか。準優同様に優勝戦も1-2決着。節イチパワーを誇っていた吉田裕平がイン完勝して末永が2着を競り勝った。それにしても吉田裕平のGI初優勝はお見事だった。「このクラスになると、ただでなく運と流れも必要。そこを何とか引き寄せたい」とレース前に話していたが、最後まで平常心で王道Vを完成させた。これには尊敬する池田浩二の存在、アドバイスも心強かったはずだ。優勝インタビューではGIウイナーだった父・徳夫さんにも触れ「これでオヤジをギャフンと言わせられますね」とこの日、一番の笑みも。この優勝で来年のSG若松クラシックの優先出場権も獲得。今後のグレードレースでの活躍が楽しみだ。(A)

着	人気	艇番	選手名	年齢	支部	今回成績	進入	ST
1	◎	①	吉田 裕平	27	愛知	1322161	1	11
2	△	②	末永 和也	25	佐賀	1312331	2	15
3		⑥	海野康志郎	36	山口	132432	6	15
4	×	④	山田 康二	36	佐賀	312422	4	13
5		⑤	吉田 拓郎	42	岡山	4452112	5	14
6	○	③	毒島 誠	40	群馬	1511431	3	12
2連単			①-②	370円	2番人気	逃げ		
3連単			①-②-⑥	4590円	18番人気			